



Title	不妊治療における多職種連携と不妊医療チーム内の看護の役割に関する研究
Author(s)	矢野, 恵子
Citation	大阪大学, 2010, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/54104
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	矢 野 恵 子
博士の専攻分野の名称	博 士 (看護学)
学 位 記 番 号	第 23720 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 22 年 3 月 23 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当 医学系研究科保健学専攻
学 位 論 文 名	不妊治療における多職種連携と不妊医療チーム内の看護の役割に関する研究
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 大橋 一友 (副査) 教 授 藤原千恵子 教 授 清水 安子

論 文 内 容 の 要 旨

不妊治療の進歩に伴い、医師、看護職者、胚培養師など、様々な職種がチームを組んで関わるの不可欠となった。本研究は、不妊医療チーム内の有効な多職種連携の在り方を検討すると同時に、その中で看護職が果たすべき役割を明らかにすることを目的とした。

日本不妊カウンセリング学会の協力を得て、不妊治療に関わる各種医療職、及び治療経験者を対象にアンケート調査を郵送にて実施し、380名より回答が得られた。その結果以下の事柄が示唆された。

1. 不妊治療関連業務（検査・治療関連、治療後、共通の計21業務）について担当職種の現状、希望を尋ねた結果、役割分担が明確なもの、チームアプローチが望まれるもの（マルチディシシプリナリー、またはインター・ディシシプリナリー等）など、業務の検討の必要性が示唆された。

2. 自由記載分析より、チーム内で看護職者は、メンタルケアや、患者-医療職間の“橋渡し”役割を期待されていた。看護職者自身は、橋渡し役割に加え、カンファレンスの充実や他職種への情報提供役割も重視していた。

また、治療経験者14名への連想法を活用した面接調査により、“橋渡し”が期待される範囲は、多岐に亘ることも示唆された。

論文審査の結果の要旨

不妊治療の進歩に伴い、医師、看護職者、胚培養師など、様々な職種がチームを組んで関わるの不可欠となった。本研究は、不妊医療チーム内の有効な多職種連携の在り方を検討すると同時に、その中で看護職が果たすべき役割を明らかにすることを目的とした。研究方法は、日本不妊カウンセリング学会の協力を得て、不妊治療に関わる各種医療職、及び治療経験者を対象に質問紙調査を郵送にて実施し、不妊関連の21業務について、「どの職種が担当しているか」「どの職種が担当することが望ましいか」について尋ねた。また、「不妊医療チームにおける多職種連携が有効に機能するための条件」と「そのために看護職者に望むこと」について自由記載で尋ねた。次いで、質問紙調査の結果、不妊医療チーム内の多職種連携において看護職者に期待される役割として関するキーワードの一つとして抽出された、患者-他職種間の「橋渡し」について、14人の治療経験者を対象に、PAC分析手法を活用した面接調査を行った。以上の結果、以下の事柄が示唆された。

1. 不妊医療チーム内の多職種連携が有効に機能するための条件として、医療職からはカンファレンスの充実、役割分担の明確化、チームメンバーの充実など主に「有効な連携の前提となるもの」および「有効な連携に結びつくもの」が、治療経験者からは、メンタルケアの充実、十分な説明・情報提供、患者相談の充実など主に「有効な連携の結果達成が期待されるもの」が、抽出された。
2. チームメンバーとしての看護職者には、専門的知識の向上、メンタルケアの充実、患者-他職種間の橋渡し役割などが期待されており、看護職者自身もそれらの重要性を認識していることが示唆された。
3. 連携のキーワードのひとつとして抽出された「橋渡し」についての治療経験者のイメージに含まれる内容は、多岐にわたっていた。不妊医療チームと患者・家族間の双方向の「橋渡し」、医師、看護職者・エンブリオロジスト・薬剤師・カウンセラーといった医療職と患者間の双方向の「橋渡し」、が患者・家族との直接の関わりにおいて有効に働くことが期待されていた。また、各職種間の双方向の「橋渡し」は、患者側からそれらが充分有効に機能していることが“見える”ことを期待されており、そのことが安心や医療職への信頼につながっていた。
4. 患者・家族が満足・納得できる治療・ケアを提供できる有効な多職種連携システムの構築のためには、患者・家族の認識や期待、治療過程の時期を考慮した上で、それぞれの業務に合わせ柔軟な連携システムの在り方を検討していく必要がある。

以上のことにより、本論文は不妊医療及び看護の在り方について重要な示唆を与えるものであり、博士（看護学）の学位授与に値するものと考えられる。